

【応募用紙】

1. 応募者概要

氏名または 団体名	(ふりがな: とくていひえいりかつどうほうじん もあなきっずしぜんがっこう) 特定非営利活動法人 もあなキッズ自然楽校		
代表者の 役職・氏名 (団体の場合)	(ふりがな: せきやま りゅういち) (役職) (氏名) 代表理事 関山隆一	会員数 (団体の場合)	(令和3年11月現在) 78名
ホームページ アドレス	http://moanakids.org/	活動開始年月	昭和・平成・令和 19年 4月
活動分野 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 1 川・海・水 <input type="checkbox"/> 2 緑・樹林 <input type="checkbox"/> 3 農業 <input type="checkbox"/> 4 3R <input type="checkbox"/> 5 環境教育・学習 <input type="checkbox"/> 6 生物多様性 <input type="checkbox"/> 7 地球温暖化対策 <input type="checkbox"/> 8 その他 ()		
環境に関する 主な活動内容 (審査対象となる 環境活動・取組 を箇条書きで記 入。行を適宜追 加して下さい)	環境に関する主な活動内容 (例) □□の美化・清掃活動、○○の生き物調査、△△の環境教育、食品ロス削減、地産地消 など		※(もし該当がある場合は、SDGsの目標番号を記入してください)
	・体験を通じて、地球でおきている問題を学ぶ環境学習活動「地球の日」		7, 12, 13, 14, 15
	・地域の河川や海のゴミ問題に特化した環境学習活動「海山eco」		13, 14, 15
活動地域 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 1 横浜市 (都筑) 区 <input type="checkbox"/> 2 横浜市全域 <input type="checkbox"/> 3 その他 ()		
活動の目的や ねらい	自分たちの住む地球で起きていることを、小学生が体験を通じて知り、考える機会の創出。		
過去に受けた表彰 および受賞年度	・令和元年度環境教育体験活動優良事例として認定(令和元年) ・「かながわボランティア活動推進基金21」令和2年度ボランティア活動奨励賞を受賞(令和3年) ・Y-SDGs 認証 Superior を取得(令和3年)		

※SDGs(持続可能な開発目標)を達成するための活動の中で、環境の保全や環境教育など、環境に関する活動は応募対象となるため、参考までに御記入いただくものです。該当しない場合は記入不要です。

2 最近3年間の主な活動

※「1 応募者概要」の「環境に関する主な活動内容」について、最近3年間の主な活動内容を記入してください。

	活動・取組・イベント等の名称 発行した印刷物等の名称	参加人数、 発行部数等	詳細内容
令和元年度	・海山 eco	年6回 延べ25名 参加児童	年間の活動から一部抜粋 - ゴミを出さない「ゼロウェイストクッキング」(横浜) - 家庭にある壊れた家具などのリペアワークショップ(横浜)
令和2年度	① 海山 eco	年6回 延べ25名 参加児童	年間の活動から一部抜粋 - 早淵川のクリーンアップや生物の観察を通じて、生物多様性や環境問題を考える(横浜)
	② 地球の日(月1回開催)	年12回 延べ240名 学童児童	令和2年度の活動テーマ (各回活動報告会は保護者や一般の方も参加) - ごみ - 森 - 衣
令和3年度	① 海山 eco	年6回 延べ25名 参加児童	年間の活動から一部抜粋 - 早淵川や鶴見川のクリーンアップ、そこに生息している生物の観察を通じて、生物多様性や環境問題を考える(横浜)
	② 地球の日(週1回開催)	年38回 延べ380名 学童児童	令和3年度の活動テーマ (各回活動報告会は保護者や一般の方も参加) - 5-7月 化石燃料 - 9-11月 着るもの - 12-2月 森と生活

※ 現在活動休止中の場合でも、今後継続して取り組む見込みがある場合は応募の対象とします。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、現在活動休止中の場合には、「詳細内容」の部分にその旨を御記入ください。

海山 eco の活動の様子①

① 「海山eco」：週末に行う自然活動体験を通じた環境学習活動

年間計6回の活動。神奈川県内の河川・海岸のごみ調査、クリーンアップ活動を通して、ごみの現状を知る。その上でごみを減らす・無くすには何が出来るか。自分たちが出来ることを考えていく。活動終了後に地域一般の方も参加可能な形で報告会を開催している。

【活動内容】

2021年5月～12月 全6回

- ・横浜市内を流れる河川でのリバークリーン
(河川から流れたごみの行きつく先は?)
- ・神奈川県湘南・西湘エリアでの海岸でビーチクリーン
(海のごみが生態系に与える影響は?)
- ・各回のクリーンアップ活動後は、振り返りを行う
(どんなごみがあったか。どうしたらごみを減らせるか)
- ・活動報告会

2021/5/15 早淵川親水公園での活動の様子 協力：鶴見川流域ネットワーク (TR ネット)



海山 eco の活動の様子②

2021/6/5 鶴見川での活動の様子 協力：鶴見川流域ネットワーキング（TR ネット）



2021/10/2 大磯での活動の様子



地球の日の活動の様子①

②「地球の日」：学童施設で毎週実施している環境学習活動

学童施設「もあなのいえ」にて2021年度は週1回の頻度で活動を行っている。環境問題に対しアクションをしている企業や専門家の協力を得ながら、年間で3つのテーマを切り口に体験を通し、学びを深めていく。例えばテーマの一つとして取り上げる「化石燃料」では、化石燃料の背景や歴史、その影響や、化石燃料に頼らない（代替品を考える）生活方法を学んでいく。休日はビーチクリーンや講師を招いて学びを深める会などの親子イベントを開催し、家族で環境問題について学び、解決に向けて日々の生活の中で取り組みを実践していくきっかけを提供している。活動終了後、地域に開放する形で報告会を行っている。

【活動内容（抜粋）】

2021年5月～7月 全13回

- ・化石燃料の背景・歴史 ・化石燃料の環境への影響
- ・親子でビーチクリーンイベント（神奈川湘南・西湘エリアの海岸）
- ・リサイクル、アップサイクル、代替品を考える
（プラスチックアップサイクル体験、蜜蝋ラップづくりなどのワークショップ）
- ・自然エネルギーについて
- ・活動報告会

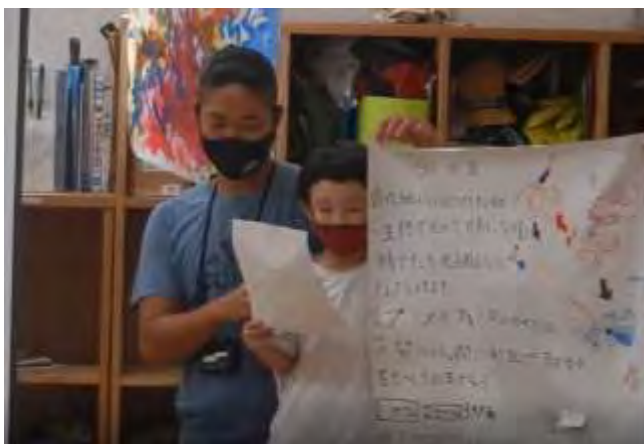
2020/9 ごみゼロゲームに挑戦してみよう！



2021/6 蜜蝋ビーズラップを作ってみよう！



7/25 地球の日「化石燃料」活動報告会の様子



7/25 活動報告会 プラスチックインジェクションの様子 講師：狩野 敦さん (Swell Plastic)
細かいプラスチックがお皿に生まれ変わるアップサイクル体験を楽しんでいる子どもたち



3 地域との関わり

	活動・取組等の名称	詳細内容
学内の生徒等や教員、保護者との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 海山 eco 親子ビーチクリーン 地球の日活動報告会、親子イベント 	海山 eco、地球の日の活動どちらも定期的に親子イベントの機会を設け、子どもと一緒に保護者の方にもビーチクリーンの活動や活動報告会に参加いただいている
自治会・町内会との関わり		
学外団体との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 海山 eco (かながわ美化財団、鶴見川流域ネットワーク、地域の大学生) 	海山 eco の自然体験プログラム活動は、かながわ美化財団や鶴見川流域ネットワーク、インターンの大学生などにご協力いただいで活動を推進している
企業等との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 地球の日活動報告会、親子イベント (ピープルツリー、PUTITON、Swell Plastic) 	地球の日の活動報告会やイベント時の講師として、ピープルツリー、PUTITON、Swell Plastic などにご協力いただいている。 具体的には、服の生産過程や化石燃料が環境へ与える影響の話をしていただきながら子どもと大人が共に学び楽しめるようなワークショップを開催している。
行政との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市 SDGs 認証制度 Y-SDGs 環境教育体験活動優良事例 ※別添資料参照 	横浜市 SDGs 認証制度 Y-SDGs において、【上位】Superior 認証取得者として認証いただいた 令和元年度環境教育体験活動優良事例として、環境省より選定いただいた
その他、環境以外の分野との関わり		

4 団体の発足経緯、活動を始めたきっかけ

※立ち上げた主体、どのようにして活動に携わる人が増えてきたのか等も合わせ、具体的に記入してください。

都市化による自然環境の減少だけでなく、管理型の社会背景などに危機感を覚え、子どもたちの健全な育成環境を取り戻すため、2007年にもあなキッズ自然楽校を設立。地域の資源(都筑区緑道など)を活用して、小学生を対象に自然体験を主とした学校外教室「放課後の居場所づくり」に取り組み始めた。当法人では、小学生を対象に自然体験を主とした学校外の学びの場を「もあなキッズアースビレッジ」として提供している。

「もあなキッズアースビレッジ」の放課後プログラムのうち、学童施設「もあなのいえ」では、小学生を対象として、環境問題に関する体験と学びの活動「地球の日」を実施、また週末の自然体験プログラムの一環として「海山 eco」を実施してきた。こういった活動をスタートした背景として、都会に住む子どもたちに、今地球上で起きている様々な環境問題について知り、考える機会を提供したいという思いがある。これから未来を創っていく子どもたちが、学校では学ぶことのできない、体験に基づいた学びを継続的にすることで、地球の未来を変えることができると考え、活動に取り組んでいる。活動に際し、環境問題に対しアクションしている団体や企業との連携、また地域イベント等での活動発表の機会の拡充にも取り組んでいる。

5 今までの活動

活動の目標・ねらいに対する成果

【活動への参加者数】

2019年：40名

2020年：50名

2021年：90名

【活動の参加者の意識・行動の変化】

学童「もあなのいえ」では、地球の日の学びに加え、日ごろからごみをできるだけ出さないよう様々な取組を実施している。

- 1) 1か月間で施設で出るお菓子のごみの量を視覚化。個包装のお菓子の購入を減らし、手作りのおやつを作るなどの取組をしている。また作ったお菓子の持ち帰りには、使い捨てのラップを使用せず、子どもたちが作った繰り返し使える蜜蝋ラップの「エコラップ」を使用し、ごみを削減している。
- 2) 子どもたちの工作には、できるだけ新たな材料を購入せず、廃材など今あるものを活用している。



手作りお菓子でごみを減らす



エコラップの活用



廃材を使った工作

子どもたちが海山ecoや地球の日で学んだ内容を家庭で話すことで、保護者自身の意識にも変化が生まれることがある。具体的には、家庭の電力を自然エネルギーに変えたり（パワーシフト）と、できるだけプラスチックを使用せず環境に優しい生活を心がけようと実際に行動に移した家庭がある。また、定期的に開催する「親子イベント」では、子ども達が学んできたことや、家庭でできる環境への取組について、スタッフから保護者へ伝える活動をしている。

生物多様性に関する取組（生物多様性特別賞の選考の参考とします）

<海山 eco>

早淵川や鶴見川のクリーンアップ、そこに生息している生物の観察を通じて、生物多様性や環境問題を考える



6 今後の活動方針

※次年度以降の目標や、活動継続のためにどう引き継いでいくのかも含めて具体的に記入してください。

※現在活動休止中の場合でも、今後の活動の見込みや方針について御記入ください。

学童で実施している体験を通じた環境学習活動「地球の日」プログラムおよび、週末に実施している地域の河川や海のゴミ問題に特化し学ぶ「海山 eco」は次年度以降も継続する。

2022年度の「地球の日」は、「生き物」「人」「自然」の3つのテーマで学びを深めていく。持続可能な社会の根底にある自然を構成する要素を知ること、自然と人間の向き合い方を考える時間にする。また、自然が循環している中の一要素として自分（人）がいることや他の種と共存していることを知ること、自分の行動選択において循環や共存を考えていけることを目指していく。

7 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

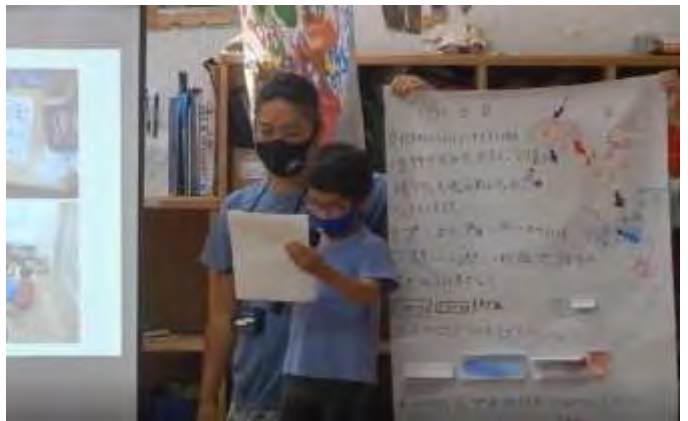
① 中長期的な行動や意識変容

学童施設や週末の自然体験プログラムを通じて、環境に配慮した持続可能な社会実現のための子どもたちと周囲の大人の行動変容に繋がっているという点。

② 体験して終わりにしない、活動の振り返りと報告

どのような体験を通じた学びにおいても「体験して終わり」にするのではなく、活動報告会の準備などを通じて、きちんと体験から得た学びを振り返り、まとめるところまで実践している点。

▼子どもたちが模造紙にまとめて発表している、地球の日「化石燃料」の活動報告会の様子



Moana Kids Earth Village

活動を行う団体

NPO 法人もあなキッズ自然楽校

<http://moanakids.org/>

活動の概要

小学生が放課後に外遊びをする機会や場も減少している現状にあるが、平成 25 年に開所した放課後児童クラブ「もあなのいえ」では、子どもたちの主体性を大事にした遊びと学びの場を提供している。



海山キッズは、神奈川県内の海・山・川のフィールドでの遊びを通し、感じ学ぶプログラムを提供している。海山 eco は、普段の生活の中でできる環境活動をテーマに活動している。

例えば、「プラスチックとの関わり方」をテーマに、海岸で実際にマイクロプラスチックを見たり、海岸で集めたプラスチックでクラフトづくりを楽しむなどした。

また、非日常的な大自然の中で過ごすことで、自然に対する尊厳を感じ、宿泊体験から人間関係の大切さを学ぶプログラムを提供する「冒険キャンプ」も実施している。

優良事例のポイント

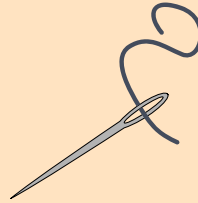
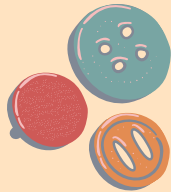
地域に根差した環境教育を実践しており、自身が生まれ育った地域の自然環境の中で、感じて学ぶことで、地域の「良さ」を感じることが、今後自らが地域貢献を行っていく姿勢を身につけることにつながっている。

また、小学生の放課後の居場所づくりにも寄与しており、社会的な問題の同時解決にも寄与する取組である。

2021.9.12(日)

わたしの服 どこで 誰が どんなふうに 作ってくれたの？

定員30名



「着るもの」について考えよう

日時 : 2021.9.12(日)10:00-12:00
場所 : めーぷるキッズ
参加費 : 無料
対象 : 小学生



私たちが毎日着ている服がどのように
作られているのか知ることができる
ワークショップを実施予定です。
この機会に、親子で服ができるまでの
道のりを、一緒に考えてみませんか？

*親子で参加いただくイベントです

教えてくれるのは…



ピープルツリー
広報・啓発担当
鈴木啓美さん



People Tree
Fair Trade & Ecology

ピープルツリーは、フェアトレード専門ブランド。
フェアトレードファッションの世界的パイオニア。
手仕事を活かしたオリジナル商品で、途上国の経済的・
社会的に立場の弱い人びとに収入の機会を継続的に提供
します。

お申込・詳細は
こちらから



主催 : もあなキッズ自然楽校
お問合せ: 045-342-8389
moanaearthvillage@moanakids.org

2021.7.25(日)

ゴミをリメイク! 捨てるものに新たな価値をつくりだそう!



どっちがいい!?

時間
13:30~16:30

地球の日（化石燃料）報告会



もあなのいえで毎週水曜に実施している地球の日の活動報告。

子どもたちからの発表もあるのでお楽しみに！

けんびきょうで見るプラの世界



顕微鏡で海水、砂浜の砂、塩の中のプラスチックを探してみるワークショップ。

細かいものを見てみると... 普段は気づかない驚きがたくさん。

ゴミがゴミじゃなくなる? 廃プラアップサイクル

ペットボトルキャップが... 大変身?!

普段はゴミとして捨てているものが、新たなモノに生まれ変わる過程を一緒に見れるワークショップです!



講師：狩野 敦さん
(SWELL PLASTIC)



場所 : めーぶるキッズ
参加費 : 無料
主催 : もあなキッズ自然楽校
moanaearthvillage@moanakids.org

お申込・詳細は
こちらから



9/12(日)に、もあなのいえで行っている地球の日の特別版を行いました！

当日はピープルツリーの鈴木さんに洋服ができるまでに
どう人と地球に影響しているかをお話してもらいました。

材料の調達、布にする、染める、縫う、お店で売る、着る、洗濯する、着られなくなるなど
書かれたカードをどんな順番が”洋服の一生”なのかを考えて、相談しながら並べました。



洋服の一生の順番がわかったら、人と環境に影響することを考えました。
土が汚れる、水をたくさん使う、薬を使う等の環境に影響すること
作りすぎ、すぐ捨てる、病気になる、安全にお金をかけない等の人が影響すること
これらの問題がどこの段階で起きているのか、考えました。



大人でも答えられないような問いがたくさんありました。

1枚の洋服に関わることを考えた後は普段目に見えない世界を見せてくれました。

なんで洋服があんなに安いのか

どのように作られているのか

誰が作っているのか

家が貧しく、子どもでも学校に行かないで働かなくてはいけない。

学校に行かないので難しい字を読めない、書けない、計算ができない。

自分に不利な契約書にサインをしてしまう。

不当に安い賃金で仕事をするしかない。

と言った貧困の悪循環から抜けられない現実も教えてくれました。



フェアトレードと聞くと少し高い分現地の人にその分支払われると思いませんか？
もちろん、正当な対価が支払われますがフェアトレードのシステムはそれだけではなく地域も作ります。

仕事を安心して行えるように病院や保育園、学校を作る等の環境も整備しています。

フェアトレードの商品は、そうでない物に比べ確かに高いです。

しかし、値段の差にこれだけのものが含まれていると知ったら安いと感じませんか？

(そもそもの話ですが、普段の生活で目にする値段は適正か？を考える必要もありますよね。適正かどうかを知るためには、何がどうやって製品になったかがわからないと判断できませんよね。値段以外の見えないところも何か買う時の選ぶ要素になるといいなあと思っています。)

現在の日本ではフェアトレードの商品を買いたくても一部のお店でしか目にしないのが現実です。

徐々に店頭に並び、買う人が選択できるような社会になってほしいです。

最終的にはフェアトレードのマークが必要にならないくらい当たり前になることを願っています。

その未来を創る子ども達に伝え続けます。